

学校関係者評価委員会 議事録

- 開催日時：2026年6月16日（火）14：00～15：10
- 出席者：【学校法人元気共生学園 国際医療専門学校 学校関係者評価委員会】

委員長	二瓶 律子	（秀和総合病院 副院長）
副委員長	猪浦 一人	（埼玉県済生会加須病院 臨床検査科）
委員	小袋 伸枝	（浦和学院高等学校 副校長）
委員	橋本 寛子	（本校卒業生 看護師・薬剤師）
委員	高橋 祐太	（本校卒業生 臨床検査技師）

【学校法人元気共生学園 国際医療専門学校 自己評価委員会】

委員長	山崎 眞奈美	（校長）
委員	遠藤 貞子	（エグゼクティブマネージャー）
委員	黒川 由美子	（看護学科 学科長）
委員	伊藤 隆志	（臨床検査学科 学科長）
委員	藤原 美香	（臨床検査学科 副学科長・実習調整者）
委員	森谷 友美	（看護学科 実習調整者）
委員	遠山 卓	（事務長代行）
委員	菅沼 寛之	（事務主任）
委員	高橋 幸也	（事務職員）

欠席者：委員 佐竹 史彦（看護学科 実習調整者）
- 開催場所：国際医療専門学校 2号館2階セミナー室
以下の出席者は、Web会議システム「Zoom ミーティング」により参加
副委員長 猪浦 一人（埼玉県済生会加須病院 臨床検査科）
委員 橋本 寛子（本校卒業生 看護師・薬剤師）
委員 高橋 祐太（本校卒業生 臨床検査技師）
- 議事次第：1) 校長挨拶
2) 学校関係者評価委員自己紹介
3) 教職員自己紹介
4) 自己点検自己評価まとめについて
5) 学校関係者評価委員からの評価および質疑応答
6) 総括

5. 配布資料：令和7年度国際医療専門学校自己評価報告（事前配布）

6. 議事内容

1) 校長挨拶および会議成立

山崎校長より出席された委員の皆様への御礼とともに、学校教育法109条の規定に基づいた学校関係者評価委員過半数の出席により、委員会の成立を宣言した。

2) 学校関係者評価委員自己紹介

学校関係者評価委員5名が自己紹介を行った。

3) 教職員自己紹介

自己評価委員が自己紹介を行った。

4) 令和7年度自己点検自己評価内容の結果報告

山崎校長より〔I学校経営〕についての報告を行った。

〔II教育課程・教育活動〕〔III入学・卒業対策〕〔IV学生生活への支援〕〔V管理運営・財政〕〔VI施設設備〕〔VII教職員の育成〕〔VIII広報・地域活動〕の7つの自己評価項目の結果および成果と課題について、各担当教職員から報告を行った。

5) 学校関係者評価委員からの評価および質疑応答

二瓶委員長

感想および質問

- ・少子化が進む中で、教職員の学生に対する様々な工夫やきめ細かい取り組みを行っていることが評価から伝わってきた。
学生を取り巻く環境や価値観が大きく変化し、卒業生を受け入れる臨床現場にとっても医療従事者としての意識や価値観、社会人としての姿勢や行動様式に変化を感じる機会が非常に増えている。こうした状況は学校にとって大変大きな課題であり、従来以上に柔軟かつ丁寧な対応が求められているものとする。その中で学生の確保と教育の質向上という両立の難しい課題に取り組みながら、多くの項目で高い評価点を得られていることは日々の教職員の努力の成果であり、深く敬意を表したい。
- ・看護学科1年生の退学率が12.4%に至った主な理由をお聞きしたい。医療機関においても新卒職員の早期離職は大きな課題となっている。その背景にはコロナ禍で学生生活を過ごした世代に見受けられる対人関係やコミュニケーション能力に関する課題が少なからず影響を受けていると感じる。
- ・知識や技術の習得に加えて社会人基礎力の育成について、現在学校としてどのような取り組みをしているのか、また今後さらに強化していく予定はあるのか。学校だけでなく臨床現場も学生育成の責任を共有する立場として積極的に連携していきたい。
- ・令和8年度より保護者会の開催が予定されていると伺った。学生への包括的な支援を充実させるために学校と保護者の連携を深める機会を設けることは大変意義の

ある取り組みであり、臨床現場としても心強く感じている。今後も学生が安心して学び、卒業後に円滑に社会に適応できるような学校と保護者と施設が連携して支援できる体制づくりを期待している。

黒川学科長より回答

- ・退学理由として、人間関係のトラブルからの意欲低下、経済的事由、学習環境の変化に対応しきれなかった点が多かった。
- ・対策として、今年度は入学ガイダンスの時期から働くとは、学ぶとは、という問いを両学科でグループワークを通して改めて考える機会を設けた。
また人間関係トラブルに関して、入学早期に担任および学科長と個人面談を行った。学習環境の変化については、学習方法を考えながら机に向かう時間を増やしていけるよう面談を継続している状況である。

猪浦副委員長

感想および質問

- ・臨床検査学科の評価ポイントが昨年と比べると向上していて安心した。
- ・自己点検自己評価の中で入学ガイダンスの時期から両学科でなぜ臨床検査技師、看護師になるのかというディスカッションをしていると聞いたが、継続していただきたい。入学して気持ちが緩む時期に、自分はどうあるべきなのかというのを話し合ってから、再度学生自身が納得できる形にしていだければと思う。
- ・定員割れは気になる点だとは思いますが、臨床検査学科は東京、大阪、埼玉に多くの養成校が設立されていると聞いている。その中で埼玉県は競争率が高くて大変だと思うが、学校の魅力を引き出そうとする苦労や努力が自己点検自己評価から感じ取れた。
- ・RTGS 指数が 10 ポイントを超えると国家試験の合格率や進級率に影響が出てくる相関があると昨年度の委員会で聞いた。スコアに対する取り組みが 3 年生からでは遅く、2 年生から行う必要があると反省が書かれていたが、昨年度は 2 年生から取り組みを始められたかどうか教えていただきたい。

伊藤学科長より回答

- ・RTGS 指数に関して、従来の取り組みの強化点として各学年のオリエンテーションで個人データを配布し、指数の持つ意味や自分のタイプを説明する時間を取り入れた。
- ・昨年度は具体的な取り組みはできなかったが、今年度は 2 年生に模擬試験を実施し、今後比較できるデータ収集をしていきたいと考えている。

小袋委員

感想

- ・先日学校説明会に伺った。施設の素晴らしさがもっとアピールできれば良いと思う。
- ・浦和学院高校で勤務する中で生徒たちの想像力の低下を感じている。その生徒たちが卒業後に進学先で、先ほどの話にあった退学者に結びついてしまうのではないかと感じた。まずは中学、高校の教員が生徒たちの教育に力を入れていかなければならないと思う。
- ・学校の中身は充実しているので、学校の入口（入学）出口（卒業）の部分を強化して欲しい。浦和学院中学、高校では AI を使用し、学生がそれぞれどんな進路に向いているのかを判断するツールの導入を考えている。AI 活用が主となりつつある時代なので、何か新しいツールの導入を検討し入口出口を広げてほしい。
- ・本日は浦和学院高校の生徒たちが授業でお世話になっている。昨年も文化祭に参加させていただいた。今年も昨年と同じように協力していきたいと思っている。

橋本委員

感想および質問

- ・両学科とも就職率ほぼ 100%ということで、入学卒業できれば就職できる学校というのは分かっている。まずは入学定員を満たすために国家試験の合格率を上げていくのが大事だと、昨年と同様に感じた。
- ・看護学科の 1 年生の退学率を聞いて、学生の生活が AI など情報化が進んでも、人と人が関わる面談などは今後も重要になっていくのではないかと感じた。
- ・単位未修得者はどれくらいいるのか、それが原因で進級できない学生がいるのか教えていただきたい。

黒川学科長より回答

- ・進級できない学生は今年度は 0 人。進級できない再履修科目の単位数を昨年度整備し、再履修科目があっても進級できるようにした。
- ・再履修科目については学内の自己学習時間を設定し、自己学習終了後には担当教員に成果物の提出と口頭試問の解答をさせている。再履修科目の受験をするために自己学習の時間数と成果物の提出、さらに教員会議での承認と校長承認を得なければならないように今年度から設定した。

高橋委員

感想および質問

- ・両学科合同の研究発表会について、開催時期と頻度を教えていただきたい。
- ・オープンキャンパス等の募集の際に、カリキュラムや授業内容の説明に加えて実際に臨床現場で働いている人の話があると、将来像がより具体的にイメージしやすく

なると感じた。学校でどのような勉強をするのかという視点に加えて、卒業後にどのような場所で働くのか、臨床検査技師としてどのような役割があるのか、実際どのように医療にかかわっているのかといった話があると、受験生にとって進路選択の材料が増えるのではないかと思う。必要であれば私自身や同世代の臨床検査技師に声をかけることは可能である。

- ・教職員の勤務環境について、医療機関では診療報酬改定の中で医療を支える人材を継続的に確保するための議論が行われている。医療人材を育成する教育機関においても、働きやすい環境を整備することは教育の質を維持するうえで重要ではないかと感じた。学校関係者評価委員会で扱う内容を超える部分はあるかもしれないが、教職員の勤務環境や処遇について意見をあげたり検討されたりする場があれば良いと思う。非常勤講師として関わる中で、先生方の学生指導に対する努力や苦勞を目にする中で、教職員の勤務環境に目を向ける必要があるのではないかと感じた。

山崎校長より回答

- ・看護学科では看護研究を実施し、臨床検査学科ではゼミ活動を実施している。その研究発表会とゼミ発表会を合同で年に1回、12月に開催している。

遠山事務長より回答

- ・先週（6/13）のオープンキャンパスで両学科の卒業生に来ていただき、臨床現場のリアルな声だったり学生生活の思い出などを話していただいた。実際、参加者アンケートの回答で卒業生の話が印象に残った、という意見が多くある。参加者としては将来の姿は聞きたいところではあると思うので、機会があればぜひご協力いただきたい。
- ・教職員の勤務環境、処遇について、物価等の高騰の中ではあるが給与体系については学校単体で決められないところではある。法人に今後も掛け合っていきたい。教職員の負担軽減についても、何か良い方法はないか検討は続けているが、現状は大きな課題の1つである。

7. 総括

山崎校長より

これまでの実績を踏まえ、学校全体として連携をより強固にし、教育の質の向上と学生生活の充実を図りながら、地域に信頼される未来に向かった学校づくりを推進していきたい。

最後に、今年度で任期満了となる二瓶委員長への感謝を申し上げ、学校関係者評価委員会を閉会した。

以上
文責 高橋